

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所独自の理念を作成しています。</p>		
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を念頭に置き、仕事に取り組んでいます。</p>		
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示しています。又、運営推進会議は3ヶ月に1回開催しています。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>隣近所の方々と挨拶は行っているが、日常的な付き合いにはなっていない。</p>		
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域のお祭りや老人会、町内のゴミ拾い、古紙回収等の催しに参加している。</p>		
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>グループホームという資源を地域に還元できればと考えている今年度は、町内のお祭りに合わせて施設の行事も楽しんでもらえるよう案内をし、近隣の方が参加できた。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		言葉使いを管理者からやスタッフ間で見直せるようにしていく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特に管理者は利用者の視線に立ち、不満等を言い易い雰囲気作りに努めています。外部の苦情申し立て機関としては、重要事項説明書に3箇所明記させていただいています。社会福祉法人旭川市社会福祉協議会 旭川市役所 北海道国民健康保険団体連合会総務部介護保険課苦情処理係		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に1回通信の発行を行い、グループホームでの全体的な様子を伝えている。個人の利用者の生活については月の様子の手紙を家族へ送っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会された時には必ず利用者の居室に顔を出し話を聞いたり利用者の様子を伝えたりしている。又、意見を言い易い雰囲気作りに努めている。		家族会にて意見交換や情報提供できるようにしたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングや都度の情報収集の中で意見交換やアンケートを行い、運営に反映できるようにしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日中はパートを含めた職員を3名以上配置しており、必要に応じて勤務の調整を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員のかやバランスを見ながら利用者を支える上で最善のチーム作りを考えている。一人ひとりがONLY ONEの存在であるように、それぞれが役割を持ち働けるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人職員研修、マナー研修、福祉用具取り扱い講習を実施した。他外部研修としてスキルアップ研修(中堅スタッフ研修等)の機会を設けることができた。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他施設での事例検討会等の紹介を受けたが参加は出来なかった。他施設で行われた夏祭りには参加することが出来た。</p>	<p>同職種間での交流は積極的に行っていききたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>必要に応じて一人ひとりと話し合いの機会を設けている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>同グループ内のグループウェアを開設しており、行事や研修に参加した場合に報告を行っており把握に努めている。又、グループウェアの活用や目標を定め向上心を持ち働けるように努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>問い合わせがあった場合にアセスメントを行い満足できる生活を送っていただけるように課題を明確にしている。</p>	<p>入所前の生活環境、生活背景の聞き取りを特に重視していきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>問い合わせがあった場合には相談に応じている。グループホーム内の見学は随時行っており家族の希望や思いを聞き取っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護機器(車イス等)や福祉用具の紹介、訪問看護や歯科住診等、必要に応じて本人、家族と相談しながら取り入れている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	面会の頻度を利用者様の状況に応じて家族と相談したり、帰宅願望時自宅へ帰れるように支援を行っている。デイサービスを利用していたことを考慮し、当施設のデイサービスを見学できるようなプランも取り入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	性別や過去の生活状況を考慮しながら生活構成の中で出来る部分の提供、職員から入居者への相談事、確認をしている。役割を持って出来たときに一緒に喜び、それに感謝できるようにしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族によりグループホーム側で依頼したことへの受け取り方もさまざまであり、負担や不満にならないように調整している。定期的な受診を必要に応じて家族にもお願いしている。		面会時に家族が利用者様に対しスタッフに気兼ねなくお世話や関わりがもてるような環境をもっと作っていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者と疎遠になりがちな家族に対して適度に連絡を取りながら通院等の調節を行い、月に1回程度は面会出来る様にしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔住んでいた地域のお祭りを見学したり、家族と調整を行い自宅や季節の行事への参加をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	適度に関わりを持てる様に、必要に応じて談話出来る様に場を設定したり、関係を保つ為にコミュニケーションする上での距離を調節し共同生活がスムーズに行くように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された利用者のところへ(施設)時々ではあるが訪問させていただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	まずは本人の希望を聞く事からはじめ、どうしたら実現が可能になるかを前向きに考えている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前や入所時にアセスメントが十分でない部分はご家族との面会時に話を聞きながら把握していくよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	デイリースケジュールまではいっていないが通院予定やリハビリ、デイサービス見学、外出等の動きをカレンダー等に記入し本人も目に触れるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランの作成にあたっては本人、家族の希望等を基に話し合い、スタッフがチームとしてサービスを提供出来る様、周知に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	評価機関の調節は行っているが、期間途中での変化については、リアルタイムでの計画には到っていない。(大きな変化であればその時点での対応ではと考えている。)		決めこまやかなケアをプランに落せるようにしていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	必要に応じて個別記録の中の観察したい部分を更に詳しく見ていく為の記録様式(独自)を利用し詳細に記録する事もしている。(行動状況、睡眠状況)		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族から要望があった場合は、早急に対応出来る様に日程調整し実現出来る様にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議で民生委員、地域の代表者に情報の提供や共有をしている。敬老会への参加を行った。		子ども会やボランティアとの交流を定期的に取り入れたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	運営推進会議に居宅介護支援事業のケアマネージャーも参加いただいております。介護保険外のサービス等について情報提供を求めればアドバイスを頂ける。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	主にデイサービスの生活相談員が地域包括支援センターと行き来している。必要に応じて相談を持ち協働できる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療連携の病院を確保しており、入居者より訴えがあったり変化が見られた場合は相談を行っている。		
44 認知症専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療が受けられるよう支援している。	当事者になる方が受診する際に認知症専門医であるかどうかを確認してから受診するに至っていないが昨年認知症の勉強会で講師としてお願いした医師の病院を中心に受診をしている。		医療関係者や同業者等からそれに関する情報を取り入れられるようにしたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携している病院の正看護師が健康管理をすると共に、24時間、携帯電話で対応してくれている。また、職員に看護師がいるので浣腸や座薬の挿入、傷の手当、病院受診の相談などを行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時に相談員や家族と連絡を行っている。又、定期的に主治医との情報交換や、相談を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のあり方について本人、家族と希望や思いを話し合っており、本人に安心して生活していただけるように主治医に今後の状態について話し合いを行っている。		本人のより良い生活の延長にある死について家族の意思を確認する機会を多く持てるようにしたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	徐々に終末期を見越した支援が必要になってきており医療連携している病院の医師との前段階での情報交換、相談はしている。		ターミナルケアについてグループホームで出来ること出来ないこと、協力医にしてもらえることしてもらえないことをはっきりさせていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>必要な情報(グループホームでの生活記録、留意事項、健康状態、精神状態等の記録、センター方式記録等)の提供を行っている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人ひとりの尊厳を守りプライドを傷つけない言葉掛けを行っている。常に確認を取り選択できる声掛けを行っている。個人情報施設からの持ち出しはしない。所定の場所への保管を行っている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ゆっくりと簡潔に伝えたり必要に応じて紙に書いて説明を行いながら本人の意思を確認していく支援をしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ある程度の流れはあるが、入居者の体調や気持ちを優先しグループホーム側の都合にならないように気をつけている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望があればなじみの理容美容室へいけるように配慮したい。日々のおしゃれについては本人の気分を聞きながら希望に応じて支援している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>日々の会話の中からも食べたいものを聞き、取り入れたりその方の能力に合わせて盛り付けや皮むき、もやしのひげ取り、オシボリまるめ等の準備をお願いしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>飲酒については毎週日曜日や祝日の夕食時に飲酒が出来る機会を設けている。喫煙については館内禁煙となっており禁煙していただいている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表の活用により一人ひとりの排泄パターンを把握すると共に、尿意・便意を確認しながら持てる力を生かせるケアを行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>ある程度の曜日を決め時間帯についてはその日の状態や気分に応じて対応している。入浴場所をグループホームのユニットバス、1Fの大浴場の選択が可能で希望を聞いて対応している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>食後間近の就寝ではなく、ホールでスタッフと話したり、居室でみたいTVを見れる様に案内し程よい疲れの中で眠れるよう支援している。起床時間についても生活習慣やその方のリズムに応じて対応している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>デイサービスの利用者と麻雀等で交流を持ったり実際にデイサービス見学という形で参加している利用者も居る。農家をしていた利用者としてグループホームの畑を耕し、育て、収穫する事も行っている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>自己管理の出来る方は家族の同意を得て管理していただいている。買い物の際には物を購入して支払いをするという社会参加の意識を少しでも維持出来る様に見守りながら行ってもらっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には町内を散歩したり、市内をドライブしている。他、催し物があれば利用者を個別に誘って参加している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節的な地域の行事(神社際)や市の催し(フラワーフェスティバル)家族の家等、小グループや個別で出かけたりグループホームで花見や紅葉狩り等の外出を行っている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所有できる方は居室にて家族や友達と会話されている。事務所の電話でもいつでも使用していただけるようにしている。手紙を書いている利用者の手紙の投函や近くのポストへ出しに行ったりしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者のお宅という雰囲気が出るように、ホールでもくつろいで過ごしていただけるように対応している。新聞や雑誌、健康機器等を使用できるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	問題への対応として利用者の行動を抑制する介護ではないかを常に考え、安易に動きを狭める事がないように話し合っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外に出たい理由を大切にケアをしている。玄関に鍵をかけることはしていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室の戸は基本的に閉めており、明けていてものれん等して丸見えにならないようにしている。ホールでは職員が必ずいるようにし安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	認知の状態を観察し、その方に応じた危険度によって様子を見ながら手元から離したり、居室内の収納場所へ移したり、職員側で管理をするといった段階を家族と相談しながら行っている。		言葉使いからの拘束について定期的に取り組んでいきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	発生した事故に対して原因と対応策を考えている。事故発生報告書と別にひやりハット報告書を使用し発生する可能性がある事故についても危険察知できるようにする観点での予防をしている。		緊急時の対応と合わせて勉強会が出来ればよいと考えている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	本年度は全職員が普通救命講習を受けAEDの使用方法や緊急時の対応の勉強をした。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を年2回実施している。		町内や近隣の方と共同の訓練ができるように計画していきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプラン説明の際に、グループホームとして出来るケアの裏側にある事故やその危険についての話と理解を得た上での支援が出来る様になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎朝バイタルチェックを行い、日々の体調観察を行うと共に、利用者の顔色や表情、行動を常に観察し、いつもとの違いの中から変化を捉えられるようにしている。ケース記録にその旨記録し情報共有している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>通院、処方薬の記録について閲覧し易くしているが内容はしっかり把握できていない。いつ、何の薬を服用していて副作用は何かをもっと把握し易いような工夫をしていきたい。</p>	<p>利用者様の病気と服用薬等の関連がわかりやすく見易いようにしていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>ラジオ体操等の軽運動、食事の中に便秘にならないよう乳製品、繊維物等をバランスよく取り入れる事。腹部マッサージ等運動と食事をトータルに考えている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアが出来るように案内や支援を行っている。必要に応じて見守り、一部介助、仕上げ磨きの介助を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事・水分チェック表等つけ一日の摂取量や経過を見ている。必要に応じて捕食や水分の種類、形態を工夫して栄養や水分の確保が出来る様に支援している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に対するマニュアルがあり、普段良く触れる居室ドアのトッテ、手すり、食堂椅子、洗面台や蛇口を毎朝次亜塩素酸の消毒液で拭いている。</p>	<p>介護機器についてももれなく出来るようにしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板、布巾の消毒を行っている。肉・魚等の調理のたびにまな板は消毒している。食材は毎日買い物に行く事により新鮮な物を提供している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関回りの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来る様に、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>季節に応じて玄関に植物やオブジェを設置し親しみ易い雰囲気作りを心がけている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ホールはブラインドを使用し直射日光を遮断できるようにしている。七夕の柳、十五夜のすすき、クリスマスのリース、ミニ鉢の花等季節感や生命感を感じさせる飾り付けを工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>他者との視界をさえぎるような場所はあまりないが利用者の気分や状態によって一人になれる場所に移動したり話を出来るグループにしたりの配慮をしている。</p>		<p>楽しさ、開放感、心地よさを考えた空間作りをしたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使っていたものやなじんだものを使ってもらえるように家族、本人には勧めている。思い出のある写真、お茶碗、居室のテーブルを持ってきている方がいる。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>午前・午後の2回ホールの換気を行っている。又、13時、21時にホールの温度と湿度の確認を行う他、居室内は利用者の訴えを聞きながら温度・湿度調節を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
出来る力を発揮できるよう、体操やリハビリに取り組んでいます。